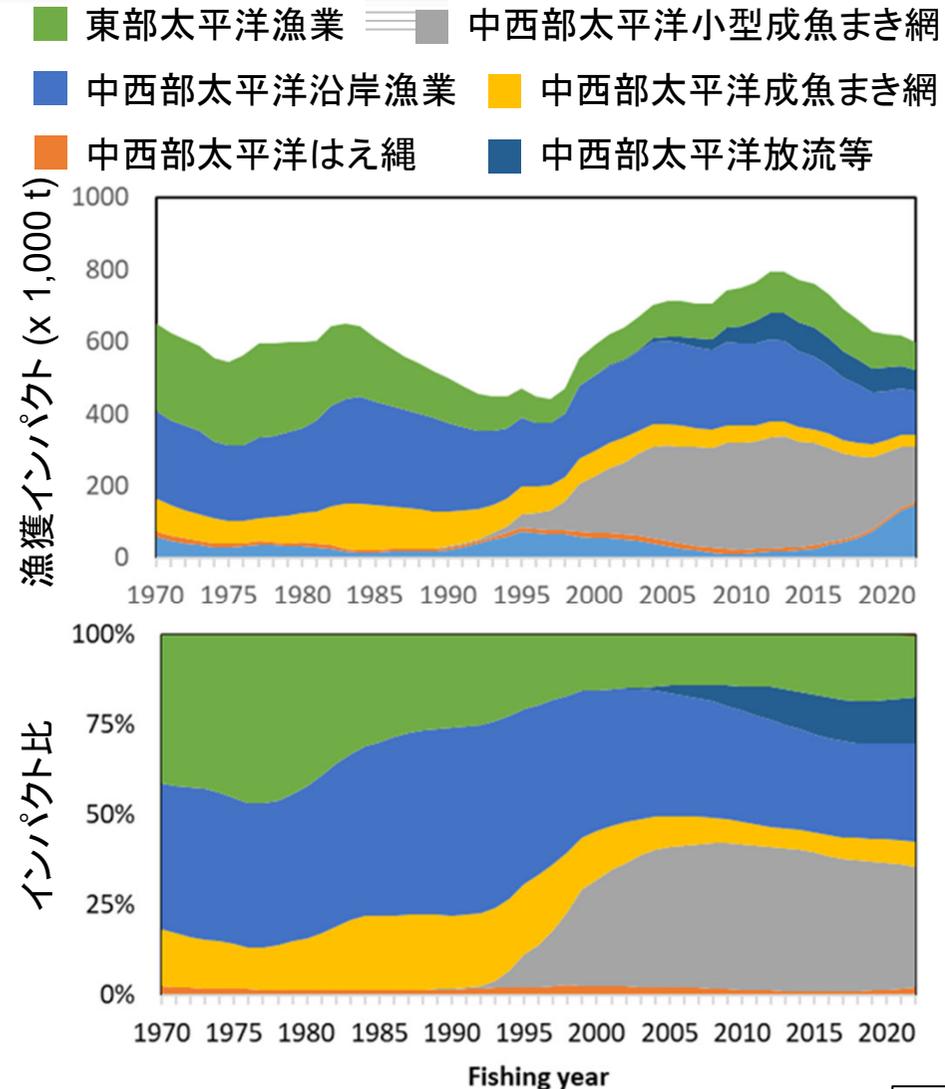


漁獲インパクト



- ❖ “もし過去の漁獲が無ければ、どれぐらいの産卵資源が残ったであろうか”を推定し、現状の資源量との差分を“漁獲によるインパクト”として可視化したもの。
 - 現在のWCPFCでの、資源管理の議論において、この東西比が使われている。
- ❖ ほとんどの漁業グループにおいて、産卵資源に対する漁獲インパクト(絶対値;上図)は減少傾向にあり、産卵資源の回復に寄与している。
 - WPOの放流後死亡等(unseen catch)のインパクトが減少しておらず、相対的に高い割合を占め始めている。
- ❖ 2022年時点の漁獲インパクトの東西比率は17:83。



(令和6年6月4日「太平洋クロマグロの資源・養殖管理に関する全国会議」の資料から抜粋)